

中央環境審議会瀬戸内海部会企画専門委員会
現地ヒアリング（東部）資料
大阪府漁業協同組合連合会
副会長 札幌 政雄

大阪湾でも栄養が不足している

1 大阪湾の現状について

- 大阪湾も、南部では、栄養塩が不足している。
逆に湾の奥では、栄養が多すぎる。
 - ・ 大規模な埋め立てで、大阪湾のふところが狭くなり、潮の流れが弱くなっているため、湾の奥の栄養が、湾全体に広がらなくなっている。
 - ・ 冬場は、窒素で水産用水基準のノリ養殖に最低限必要な濃度を下回って、ノリの色落ちも見られるようになっている。
 - ・ 最近、冬場に、関西国際空港のまわりに行くと、沖縄の海とまちがえるような青く透明度が高い海になっている。
→ 栄養塩不足で、植物プランクトンが湧いていない。
「見た目がきれいな海」と「豊かな海」とはちがう。
 - ・ カタクチイワシの卵は、たくさん生まれているが、ふ化した後、シラスとして漁獲されるまで大きくなるしない。
→ 栄養塩不足で、エサとなるプランクトンが湧いていない。
 - ・ イワシシラスがエサのプランクトン不足でやせている。
 - ・ 大阪府の海面漁業は、マイワシなどの減少により、昭和57年の約11万4千トンピークに減少し、最近では、約2万トン前後に落ち込んでいる。
 - ・ 底びき網漁業の漁獲量は、昭和60年の約2,600トンピークに減少し、平成21年は、約1,500トンと40%も少なくなっている。
- ☆ 常に大阪湾に接している漁師の目から見て、栄養塩不足のために漁獲量も落ちこんでいる。

2 第7次水質総量削減計画について

- 1のように大阪湾でも栄養塩不足がおきているにもかかわらず、環境省は、第7次の計画で、瀬戸内海では、大阪湾だけ別のあつかいにして、さらに湾に入ってくる栄養塩を減らすと言っている。
(瀬戸内海の他の海域では、減らさないで現状どおり)。
大阪湾では、目標年度である平成26年までは、減らし続けると言っている。
湾の奥や南部、冬と夏で状況が違うのに、そのことを全く考慮していない。
大阪湾の現状をきちんと認識して方針や計画を立てるべき。

- 赤潮の出る回数が減っていないから栄養塩を減らすと言うが、最近では、漁業被害が出るような赤潮は、出ていない。
稚魚のエサになるような植物プランクトンの赤潮は、発生するほうがよい。

- 環境基準を達成できないから栄養塩をへらすと言っているが、達成できていないのは、栄養塩が不足しているという南部だ。
栄養が多すぎる湾の奥の環境基準は、達成できているという。
環境基準の決め方がおかしいのではないかと？
南部でこれ以上栄養塩を減らす必要はない。

- 苦潮（酸素のない水）が出るので、栄養塩を減らすと言っているが、魚がたくさんとれていた時にも苦潮は、出ていた。
計画どおりに湾に入ってくる栄養塩を減らすと、苦潮が出なくなるのか？
科学的にちゃんと予測した結果をもっているのか？
計画が達成されたとき、大阪湾の漁獲量は、どうなると予測しているのか？

3 大阪湾における調査研究について

環境省は、三河湾、播磨灘などでは、将来の栄養塩管理のための色々な調査研究を行っていると言っているが、大阪湾でも、早急に同じような事業を始めるべきだ。

4 下水処理場からの適正な栄養塩の供給について

下水処理場から、生き物にとって望ましい、もっと栄養のある水を出せるように、下限値の設定などを行い、弾力的な運転が行えるようにして欲しい。